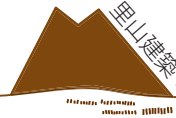


3く3く

第8号



里山建築研究所筑波山麓録

特集

つくばさんたる

01

えびすさんたる

02

information

グッドデザイン賞ベスト100

木材利用ポイント

04

report

TBS 夢の扉+

食堂松野や

04

「つくばさんたる」DATA	延床面積 約15坪
構造 板倉構法	外部仕上 日本瓦葺 (ふし)
屋根 スギ大和張り仕上 漆喰塗り	外壁 ガリバリウム銅板横置き
庇 木製建具 (襖欄ラース)	内部仕上 スギ本美板あらし 漆喰塗り
壁 スギ本美板 厚1寸	床 畳
土間 瓦骨材入り研ぎ出し仕上	内部建具 木製建具



つくばさんたる

平屋切妻屋根の落ち着いた佇まい

つくばさんたるは、15坪のシンプルな平屋。建主のAさんは、子どもたちが独立した今では丁度いい広さと話す。台所には妻側の窓から朝日が差し込む。朝は日課である体操をした後、気持ちよく朝食の準備ができる点を特に気に入っているとのことだ。

呂まで土間続きとなつてい。土間は、屋外と屋内の中間に位置し、室内でありながら土足ではいることができる。その勝手の良さから伝統的な日本家屋では炊事や農作業の場であった。また、お客さんが最初に踏み入る場のためコミュニケーションの場でもある。お客さんも改まって座敷に招かれるより、上がり框(か



台所には妻側の窓から光が差し込む



茶の間と寝室の板の間には古建具も利用



浴槽は保温性の高い高野檜

まち)や椅子に腰かけて立ち話の気分が気軽に接することができる。その利便性や感覚は現代でも健在だ。新居に越したのをきっかけに、子どもが孫をつれて頻繁に訪れるようになり、休日ともなると賑やかになるそうだ。孫たちのお気に入りのはロフト。備え付けたハシゴで駆け上がり、木登りの感覚で遊びまわる。しまいには布団を持ち込んで、寝てしまうことも。さんたるは、コンパクトな家ながらも土間や小屋裏を生かして広がりとお興行のある住まいとなっている。

●おひさまの角度がわかる

差し込む太陽の光の角度が、春夏秋冬、変化していくのがよくわかる。採光のことは、事前に聞いてはいたが、正直いって、ここまで変化に富んでいるとは思わなかった。太陽とともに、日々暮らしている実感が湧く。

●生活音が美しい

階段を昇る足音、手すりを触ったときの音、扉の開閉、ノック、擦過音。トントん、カラカラ、カタカタ、プワン、カサカサ。生活の音が、とにかく美しくリズムカル。

●水回りの心地よさ、湿度調整

お風呂も台所もトイレも、そして部屋の湿気も、「水」と暮らすことは最大の問題で、住まいへの負担と思っていたが、木が調整してくれているように感じる。冬もカラカラには乾かない。余談だが、お風呂は最高に気持ちよくて、水に濡れた木にうっとり。旅館みたい。



高野横の浴槽が香るスギ板張りの浴室



地階 大きなテーブルと壁一面に本棚のある地階の仕事場



2階寝室 南側に大きな開口部のあるサンルーム

●オリジナルのデザインの中で暮らす

壁・床材の節目や文様は、それぞれ計算されたわけではなく、バラバラなものなのに、自然が生んだ意匠であるためか不思議とストンとはまる感じ。当然のことながらその全てがオリジナルで唯一無二。

●ストレスがない

家ができてから、一度も後悔することなく暮らしているので、ストレスがまったくない。杉の柔らかい感触の治癒力が大きく、この半年、仕事が猛烈に忙しくて精神的な負担が大きかったが、家に癒やされて何とかやり過ごせた。

●空気が塊になって感じる

1階、2階、地下と、空気の輪郭が実感でき、それぞれに差異がある。木の家と聞き、冬はスカスカで寒いだろうと覚悟していたが、実は暖かい。女性の友人や来客にも好評。

●働く家・働く人の家

板倉の家は、ものが散らかっていても、やっきになって掃除しなくても、そんなに気にならない。機能の家、働く人を応援してくれる、労働する人の家。

●杉は柔らかい

足許や柔らかい。転んでも、階段からずり落ちてても、ひっくり返って椅子から落下しても、体にあまり負担がかからず、足の小指がぶつかっても、そんなに痛くない。ても割れない。ゴロ寝ができる。裸足で歩く気持ちよいはず(夏に向けて)。

●広く感じる

空間が大きく、面積の数字としては狭い家なのに、圧倒的に広く感じられる。部屋の各所から見渡せる視界が広い。

●新築が完成形ではない

経年変化を劣化、老朽化ではなく、今風にいえばエイジング。熟成などと言い換えることができる。柱の割れ、床のくすみもジーンズが体になじむ過程のようで、どんどん家そのものが身体のサイズに合ってくるのを実感できる。そのため、ひびや汚れの対策・対処に神経をすり減らすこともない。

「えびすさんたる」DATA	
敷地面積	約14坪
延床面積	22坪
地階	鉄筋コンクリート造
地上	木造(板倉構造)
外部仕上	木造(板倉構造)
屋根	ガルバリウム鋼板横葺き
外壁	大壁杉板張り
庇	ガルバリウム鋼板横葺き
外部建具	アルミサッシュ(複層ガラス)
内部仕上	スギ本実板あらし、漆喰塗り
壁	スギ本実板 厚1寸
床	畳
玄関	陶板張り
内部建具	木製建具



建主自ら選んだ白いタイルを貼った台所



地階から2階まで風の通る階段室



家づくりの裏側⑦

「板倉の家に住んで日々感じたこと」

都心の住宅街に建つ、建坪8坪の小さな板倉の家「えびすさんたる」。準防火地域で、内外装すべてをスギあらわしにした板倉の空間を実現しました。地階はRC造の仕事場、板倉の1、2階を居住空間としています。竣工からはや半年、板倉の家に住んで日々感じていることを建主さんに聞いてみました！



スギあらわしの外観

●生き物とともに生きている

まだ新築だからかもしれないが、パチパチと木が割れる音がして、生き物の中で一緒に暮らしている感じがする。安心感があり、一人にいるときも淋しくない。

●ご近所と張り合わなくてよい

周囲に高級外国車がいつぱいの地区に暮らす貧乏な夫婦だが、周辺とはライフスタイルが明らかに違うので、張り合う必要もなく、暮らしやすい。押し売りも、一度しっかり断れば、二度と来ない。

Good Design Award 2013.10

グッドデザイン賞・ベスト100

優れたデザインを表彰する制度として1957年に設立された「グッドデザイン賞」。グッドデザイン賞2013において、里山建築研究所は、「かやぶきの里プロジェクト」で3部門で受賞いたしました。うち、住宅・住宅設備部門では「グッドデザイン賞ベスト100」に選出。“都会の子どもたちに故郷を”をテーマに都市農村交流の活動を行いました。主としてお米づくりに取り組みました。食の安全と自然環境への理解のために減農薬農法を実践。さらに築150年茅葺きの農作業小屋を移築。移築の際は、近隣の住民ならず学生、都市住民と多くの協力を得て完成しました。活動の拠点として利用されています。これらソフトとハード両面の取り組みを高く評価されました。



食堂「松野や」竣工 2013.12

農漁家れすとらん 松野や

宮城県南三陸町で里山建築が設計を担当いたしました「松野や」が竣工いたしました。松野やは互助会制度を利用して建設されました。南三陸は、水産業を主産業としていますが、海から陸を見上げるとはいるとすぐに山が広がり、そこには杉を主とした豊かな森林資源が眠っています。その杉を製材し、家づくりに利用することで地域経済の発展に寄与できます。そこで「南三陸木の家づくり互助会」を設立。会員には林業を含む建設業関係者も加わっているので、専門的なアドバイスを受けることができます。また、人手の必要な建て方をはじめに、掃除や片付け、床のワックス仕上げと簡単な施工まで幅広くサポートしています。その結果、松野やでは建設費用の約1割を節約することができました。これから家をつくらうとしている会員も現場での作業を体験することで、家づくりの基本を学び自らの家づくりに役立てることができます。

松野やは互助会の設立後第一号として無事に竣工しました。被災地はまだ復興段階。飲食店も数少ないですが、地域の食堂として賑わっています。



木材利用ポイント 2013.12

農林水産省林野庁

林野庁

林野庁が住宅への木材の利用を推進するためにはじめた「木材利用ポイント」。里山建築研究所は登録事業者として認定されています。当初は2013年度に終了の予定でしたが、2014年4月以降も延長しています。なお、板倉の家では木材利用ポイントの条件である「木造住宅の新築・増築または購入」「住宅の内外装の木質化工事」ともに当てはまり、最大60万ポイント（60万円相当）が利用できます。

里山建築研究所ではポイントを棚や机など家具材として活用しています。

その木、 どこの木？

木材利用ポイント実施中

report

夢の扉+ 2014.1

TBSテレビ



日本を元気にするドキュメンタリー番組「夢の扉+」（1月19日放送）に安藤邦廣（当研究所主催）が出演いたしました。番組では約20年前の板倉の家の開発エピソードまで掘り下げるところからスタート。板倉構法に欠かすことのできない板と柱の標準化や建築基準法を満たすための実験など課題をクリアするまでの道のりを密着取材。

また、板倉の家の特徴である柱間に板壁を落とす構造や板壁を2枚貼ることで強度と快適さを確保する板倉の家の特徴などを映像でわかりやすく解説されています。

あわせて安藤が現在取り組んでいる東日本大震災の復興の活動、被災地の仮設住宅や復興住宅の取り組みも紹介されました。



株式会社里山建築研究所

〒100-0433
茨城県つくば市北条一八四
TEL: 029-867-1086
FAX: 029-867-1083
URL: <http://satoyama-archi.co.jp/>
E-mail: sat@satoyama-archi.co.jp

会社概要

里山資源を生かした居住スタイルを探る実践的な試みの場として、筑波山の山裾に開設したのが、里山建築研究所です。現代の里山に循環を取り戻すべく考案された板倉の家を提案し、時代の趨勢によって変わり続ける民家の現代のかたちを探ることが、私達の試みです。

しごと

設計・設計監理
「板倉の家」…新築、改築
「民家再生」…改築、移築
「茅葺き」…葺き替え修繕、新築
他
「企画制作、調査研究」
「地域づくり支援活動」

編集後記

テレビ取材ついで、膨大な記録から編集され、実際に使われる映像は僅か数秒という世界を垣間見ることができました。そこ音声が演出が加わり非常に密度の高い内容となっています。見習わなければ（K）

